

永平寺町子どもの読書活動推進計画

令和5年4月

永平寺町教育委員会

目 次

- 第1章 子どもの読書活動推進計画の趣旨
 - 1 計画策定の趣旨
 - 2 計画の期間
- 第2章 子どもの読書に関する現状と課題
 - 1 家庭における現状と課題
 - 2 地域における現状と課題
 - (1) 図書館における現状と課題
 - (2) 児童館等における現状と課題
 - 3 学校等における現状と課題
 - (1) 幼稚園・幼稚園等における現状と課題
 - (2) 小学校・中学校における現状と課題
- 第3章 計画目標と取り組み
 - 1 目標
 - 2 目標達成に向けた取り組み

第1章 子ども読書活動推進計画策定の趣旨

1 計画策定の趣旨

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。国は、社会全体で積極的にそのための環境の整備を推進していくことは極めて重要であるとして、平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定し、子どもの読書活動の推進に関する基本理念を定めるとともに、国や地方公共団体の責務等を明らかにしました。そして、令和5年3月には、「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を定めました。

また、福井県は、「子どもが自主的に本に親しみ、みんなで読書を楽しむ環境づくり」を基本目標に掲げた「第3次子どもの読書活動推進計画」を令和2年3月に策定しています。

近年は、少子高齢化やグローバル化の進展、インターネットやスマートフォンの普及などにより、私たちを取り巻く社会環境は大きく、急速な変化をみせています。SNS等の情報通信技術を利用する時間は増加傾向にあり、調べ学習における電子メディアの活用も増えてきています。そんな中、精査した情報を基に自分の考えを形成し表現するなどの資質や能力を育むことに資するという点などからも、読書活動の重要性は高まっていると考えられています。

この「永平寺町子ども読書活動推進計画」は、永平寺町の子どもたちに、読書の楽しさを知るきっかけや、成長段階に応じて読書に親しむ機会を提供し、読書活動を広げ、読書体験を深めることのできる環境づくりを目指して策定するものです。

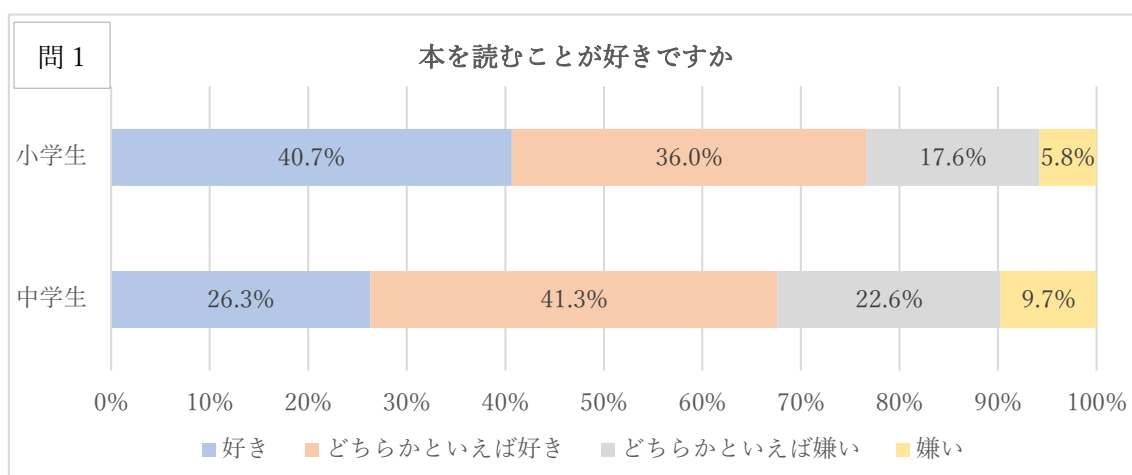
2 計画の期間

計画の期間は、令和5年度から令和9年度までの5年間とします。

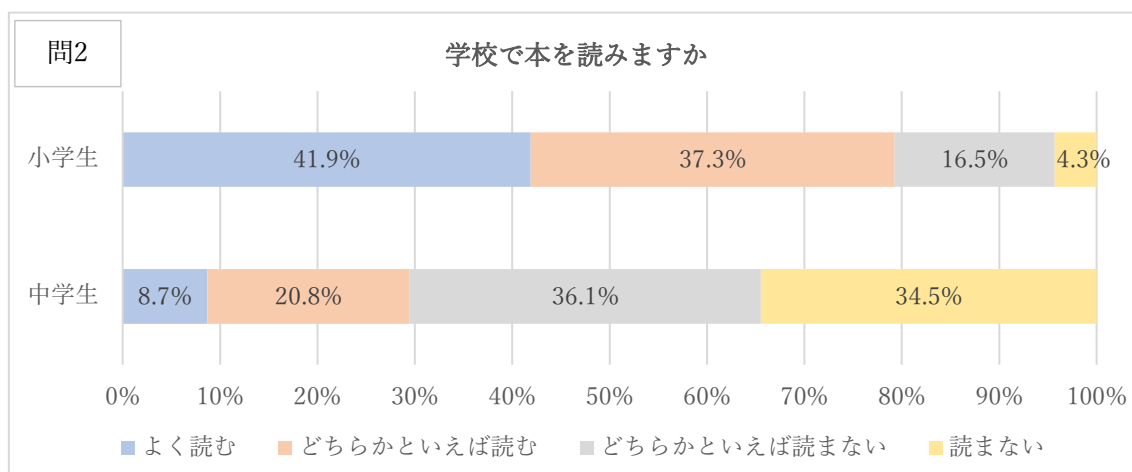
第2章 子どもの読書に関する現状と課題

永平寺町における児童生徒の読書状況について、この基本計画を策定にあたり行ったアンケート結果によると、「本を読むことが好き」または「どちらかといえば好き」との回答が、小学校で 76.7%、中学校で 67.6%（図表 1）となっています。しかし、学校や家での読書状況（図表 2, 3）からは、成長するにつれて読書から離れていく傾向が伺え、その理由のひとつとして、子どもの読書習慣の形成が十分ではないということが考えられます。

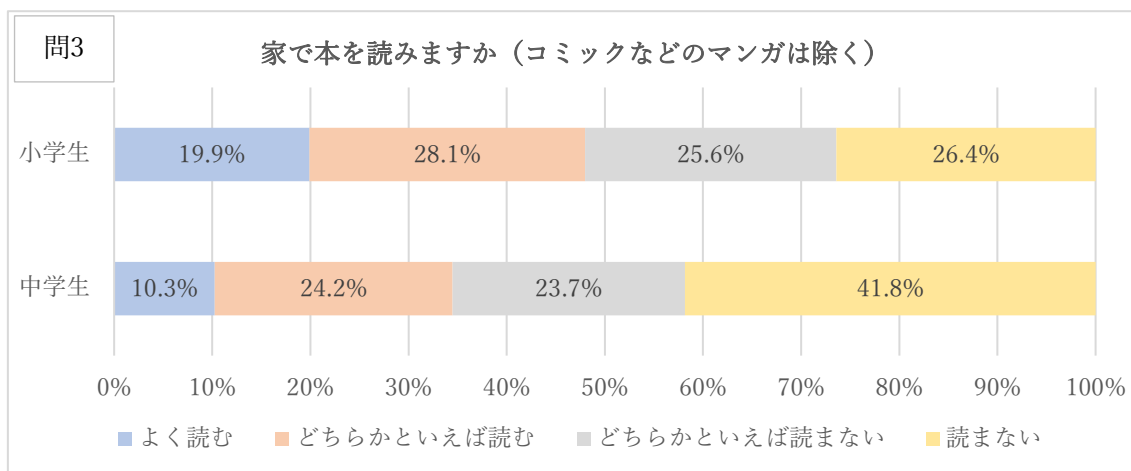
（図表 1）



（図表 2）



(図表 3)



1 家庭における現状と課題

子どもの読書習慣は日常の生活を通して形成されるものであり、家庭の影響が大きいことが指摘されています。乳幼児期における家庭での読み聞かせや、家族で本を読むことなどは子どもが読書に親しむきっかけとなります。

永平寺町では、乳幼児を対象としたブックスタートを平成 20 年度より実施しており、家庭における絵本を介したふれあいのきっかけづくりを行うとともに、家庭での読み聞かせについての働きかけなども行っています。家庭での読み聞かせ状況については、「ない(なかった)」との回答が、小学生では 28.8%、中学生では 36.3% (図表 4) となっています。また、本を読んでもらうことについては、「好き(好きだった)」「どちらかといえば好き(好きだった)」という回答が、小学生で 81.9%、中学生で 54.3% (図表 5) となっており、子どもが本に親しむきっかけにもなっていると考えられます。

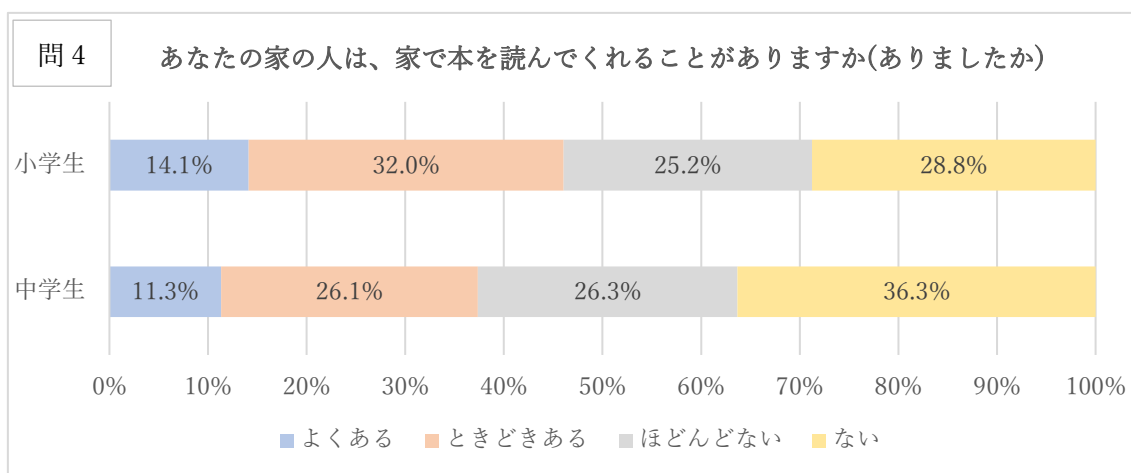
家での読書状況を、家庭での読み聞かせが「よくある(あった)」または「ときどきある(あった)」との回答者と「ほとんどない(なかった)」または「ない(なかった)」との回答者に分けて比較すると、「よくある(あった)」または「ときどきある(あった)」との回答者の方が読書をしている傾向にある (図表 6) ことが伺え、家庭での読み聞かせが読書習慣につながっている可能性もあると考えられます。

子どもの読書習慣の形成には、子どもが本に出会う機会の充実を図るとともに、家庭での読み聞かせなどによる絵本や物語に親しむ体験の重要性、読書体験の必要性を保護者に働きかけていくことも必要だと考えます。

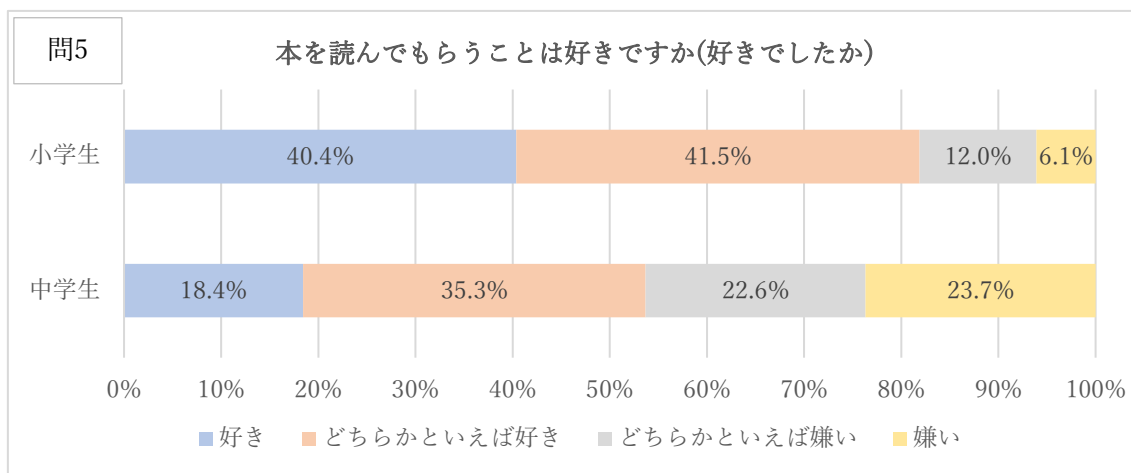
近年は、スマートフォンの普及などによりインターネットを利用して情報を得るこ

とも容易になりました。また、電子書籍の増加などにより、紙媒体でなく電子媒体を利用した読書も行えるようになってきていることも考慮しながら、子どもの読書活動の推進を行っていく必要があると考えます。

(図表 4)

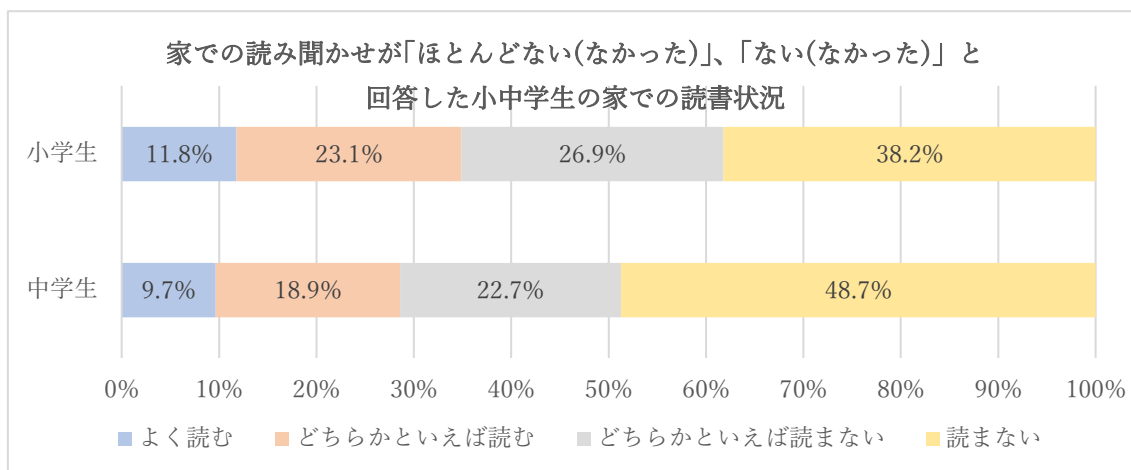
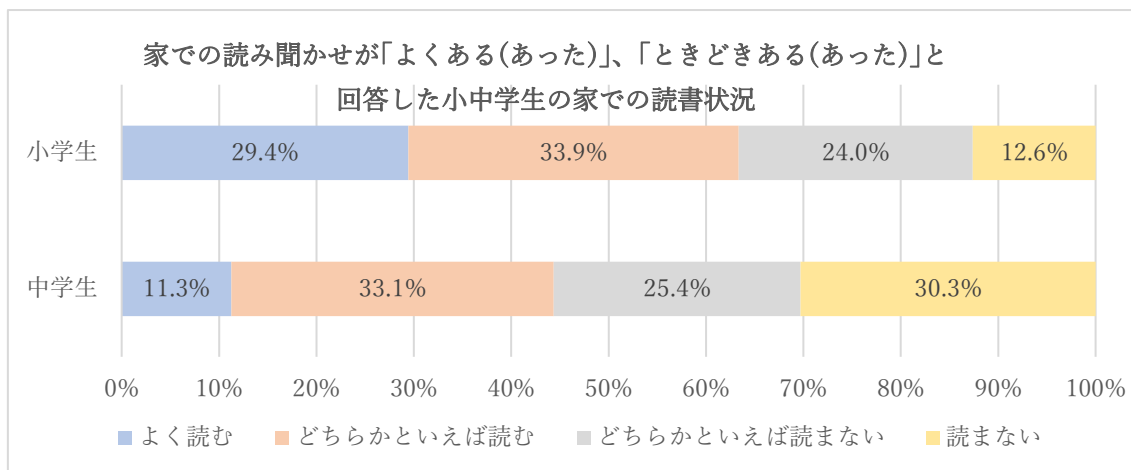


(図表 5)



(図表 6) 家での読み聞かせ状況別にみた家での読書状況

※(問 4)「あなたの家の人は、家で本を読んでもくれますか(ありましたか)」との回答別にみた(問 3)「家で本を読みますか(コミックなどのマンガは除く)」



2 地域における現状と課題

(1) 図書館における現状と課題

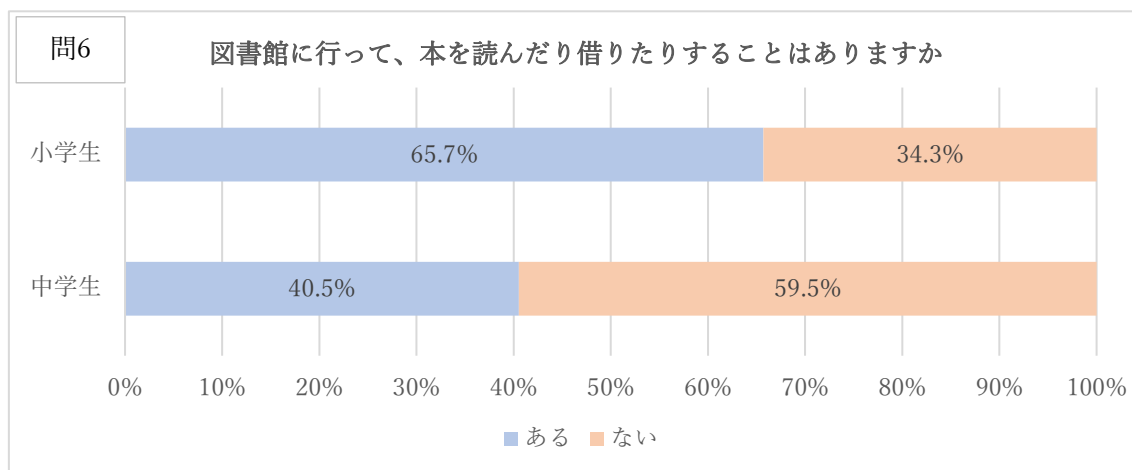
図書館は、子どもにとって、読みたい本を自由に選び、読書の楽しみを知ることができる場所です。また、保護者にとっては、子どもに読ませたい本を選択したり、子どもと一緒に本を楽しんだり、子どもの読書について相談したりすることができる場所です。

図書館では、児童書の充実に努めるとともに、定期的な読み聞かせやおはなし会を館内で行っています。また、児童館、児童クラブ、子育て支援センター、幼稚園、幼稚園、小学校へ出向いてのおはなし会、読み聞かせ、ブックトークを行っています。この読み聞かせ等では、読み聞かせボランティアも活躍しており、子ども読書活動推進

において大きな役割を果たしています。

図書館の利用については、中学生の利用する割合は小学生より低くなっていることから（図表 7）、子どもの継続的な利用を図るとともに、中学生と図書館をつなぐ事業の取り組みが必要だと考えます。

（図表 7）



（2）児童館等における現状と課題

児童館は、健全な遊びを通して、児童の集団及び個別指導の実施並びに中学生、高校生等の年長児童の自主的な活動に対する支援を行う施設です。児童館における読書活動推進の活動はそれぞれですが、読み聞かせボランティアによる絵本の読み聞かせ等を実施している館もあります。

また、放課後児童クラブや子育て支援センターにおいても、職員または読み聞かせボランティアによる読み聞かせが定期的に行われているところもあり、子どもが本と親しむ場ともなっています。

各施設で行っている読み聞かせ等を継続するとともに、身近に本のある環境をつくる取り組みが必要だと考えます。

3 学校等における現状と課題

(1) 幼稚園・幼稚園等における現状と課題

幼稚園・幼稚園では、乳幼児期に読書の楽しさを知ることができるよう、幼稚園教諭や保育士、読み聞かせボランティアや図書館職員などにより、各園では定期的な読み聞かせを行っています。また、幼稚園・幼稚園によっては、図書コーナーの絵本の貸出を行っており、家庭での読み聞かせの推進にも取り組んでいます。

幼稚園・幼稚園において乳幼児が読み聞かせなどによって本に出会える環境を整えるとともに、家庭での読み聞かせにつながる取り組みを行っていく必要があると考えます。

(2) 小学校・中学校における現状と課題

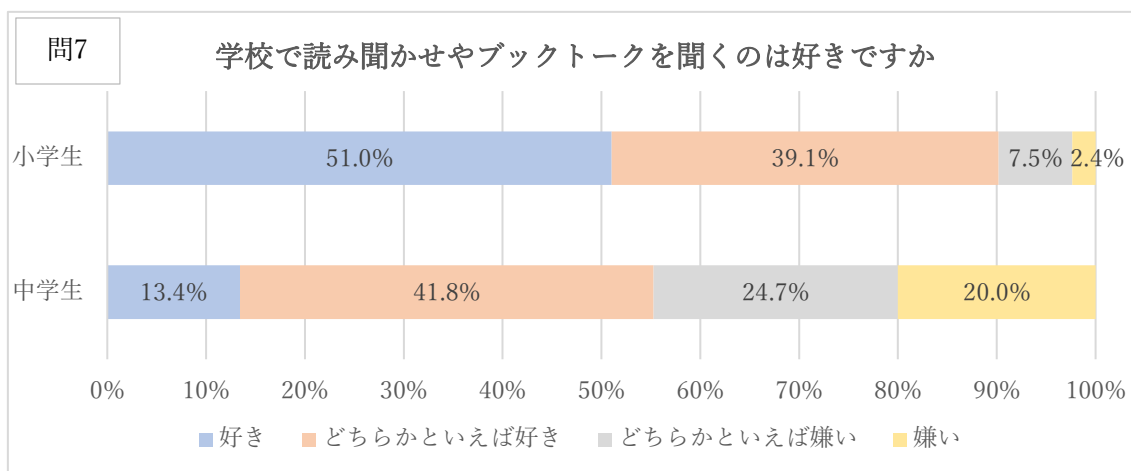
子どもが生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成していく上で、学校はかけがえのない大きな役割を担っています。

小学校では、町内全小学校において全校一斉読書活動を行っているほか、おすすめ図書を紹介や親子読書などに取り組んでいる学校もあります。また、図書館職員や読み聞かせボランティアによる読み聞かせやブックトークの実施、図書館の団体貸出の活用など、地域と連携した読書活動の推進にも取り組んでいます。

中学校では、委員会活動における本の紹介など、中学生が主体となった取り組みも行なわれています。

しかし、中学生になると読書から離れる傾向（図表 2, 3）があるといえるため、学校における図書の充実を図るとともに、読み聞かせやブックトークの実施（図表 8）など、子どもの読書習慣が形成されるような取り組みを行うことが必要だと考えます。

(図表 8)



第3章 計画目標と取り組み

1 目標

基本目標

永平寺町における子どもの読書活動の現状と課題を踏まえて、子どもの読書活動を推進するために、次の3つを目標とします。

- (1) 家庭における読書活動の推進
- (2) 読書環境の整備
- (3) 家庭、地域、学校等の連携の促進

達成目標

本計画においての目安として、5年後の達成目標を設定します。

本を読むことが好きな児童生徒の割合	現状 (R4年度)	目標 (R9年度)
小学生	76.7%	80.0%
中学生	67.6%	70.0%

※「本を読むことが好きですか」(図表1)より

2 目標達成に向けた取り組み

(1) 家庭における読書活動の推進

- ①子どもや保護者が成長段階に応じた本を知り、手に取ることができる環境をつくります。
 - ・子どもや保護者が成長段階に応じた本を知ることができるよう、福井県教育委員会が選定する子どもの成長段階に応じた推奨図書の情報などを提供します。
 - ・幼稚園や保育園などのおはなし会や読み聞かせを継続して実施し、読書の楽しさや面白さを伝えます。
- ②家庭における読み聞かせや読書の大切さを伝える事業に取り組みます。
 - ・ブックスタート事業を継続し、本を介したふれあいの大切さを伝えます。
 - ・保護者を対象とした講座や親子対象のおはなし会等を実施し、家庭内での読み聞かせや読書の習慣化を推進します。

(2) 読書環境の整備

- ①子どもが成長段階に応じた本に出会える環境をつくります。
 - ・幼稚園、幼稚園、小学校、中学校、児童館、放課後児童クラブ、子育て支援センターなどの各施設における本の充実に努めます。
 - ・図書館の本を活用して、子どもがさまざまな本と出会える機会の充実に努めます。
- ②子どもが読書に関心を持つような事業に取り組みます。
 - ・幼稚園や幼稚園などの施設でのおはなし会活動の充実に努め、子どもが本を身近に感じることができるように努めます。
 - ・小学校や中学校での読み聞かせやブックトークの充実に努め、読書習慣の形成につながるように努めます。

(3) 家庭、地域、学校等の連携の促進

- ①家庭、地域、学校それぞれが連携・協力し、子どもがより多くの本に出会えるよう取り組みます。
 - ・家庭、地域、学校の連携や協力が行いやすい体制づくりのため、連絡会を実施し、連携の促進を図ります。
 - ・幼稚園、幼稚園、児童館、放課後児童クラブ、子育て支援センターなどの職員、小学校、中学校の教員、ボランティア、保護者など子どもの読書に関わる全ての方々に、読書に関する情報共有を行い、読書活動の充実に努めます。

※この「永平寺町子どもの読書活動推進計画」の図表は、町内の全小中学校を対象として行ったアンケート結果（児童生徒数 1,340 人(R5.2.1 現在)、回答率 83.4%）を基にしています。